

1. 施設の名称等

施 設 名 称	雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）
所 在 地	島原市平成町 1-1

事業所管	地域振興部	地域づくり推進課
課（室）長名	宮本 浩次郎	

総合計画上の位置づけ	基本戦略	3-2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る
	施 策	4	しまや半島など地域活性化の推進
	事 業 群	⑤	地域振興のための自然資源の活用

2. 施設の概要

設置年月日

平成 14 年 7 月 1 日

設置法令等

雲仙岳災害記念館条例（平成 1 3 年 1 0 月 9 日）

設置目的

・雲仙普賢岳噴火災害の脅威と教訓を学習・伝承する施設

・全国からの支援に対する感謝の気持ちを表す施設

利用対象者等

主な利用対象：県民及び県外観光客

開館時間：午前 9 時～午後 6 時、年中無休（メンテナンス休館期間を除く）

施設内容

敷地面積：6 ha、延床面積：5, 9 0 4 m²

主な施設：常設展示、こどもジオパーク、ワンダーラボ、ミュージアムショップ、カフェレストラン、イベントスペース、セミナー室、事務室

施設の利用料金体系

NO	体験ゾーンの入場料（円、税込）	大人	中高生	小学生	小学生未満
①	常設展示	個人	1,050	740	530
		団体（15名以上）	840	590	420
②	こどもジオパーク		350		
③	①+② 年間フリーパス		1,800		
④	ワンダーラボ	個人	500		
		団体（15名以上）	400		
		③年間フリーパス提示	250		

○障がい者及びその介助者
1 名半額

○車椅子、ベビーカー貸出
無料

○海外客向けの音声案内
装置貸出無料（要予約）

類似施設の設置状況

施設名	阿蘇火山博物館	桜島ビジターセンター	
入館料	中学生以上	1,100円	
	小学生	550円	
	65歳以上	880円	
	幼児	無料	
利用者数（令和5年度実績）		63,797人	92,520人
指定管理者制度導入		-	平成21年4月1日
開設年月		昭和57年4月	昭和63年4月
施設延べ面積（敷地面積）		4,248㎡（5,522㎡）	596㎡（4,538㎡）

県

予

算

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
(単位：千円)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(計画)
財 源	国 庫	20,000	10,000	5,302	
	その他（ 県 債 ）	39,329	96,500	19,600	28,700
	一般財源	5,574	11,842	2,198	28,697
	事業費＜A＞	64,903	118,342	27,100	57,397
内 訳	管理運営負担金				
	その他（ 定期点検、施設改修 ）	64,903	118,342	27,100	57,397
	人件費＜B＞				
	合計＜C=A+B＞	64,903	118,342	27,100	57,397
単位あたりコスト		1,184	1,820	315	566

「雲仙岳災害記念館入場者1,000人あたりの費用」＝C÷（雲仙岳災害記念館利用者数<単位：1,000人>）
（補足）

記念館の主な管理運営財源には雲仙岳災害対策基金を充当しており、上記予算は県が実施する大規模な修繕に係る費用等である。

また、通常、県から指定管理者に対する管理運営負担金は拠出していないが、令和2年度から令和4年度については新型コロナウイルスや光熱費高騰の影響を踏まえ、例外的に公共サービスの維持・継続のために支援負担金を拠出した。このほか、施設の老朽化に伴う修繕工事を計画的に実施しており、令和2年度以降は施設修繕関連の予算を計上している。

3. 指定管理者の概要

指定管理者 の名称等	《所在地》 島原市城内 1 - 1 2 0 5			
	《名 称》 (公財) 雲仙岳災害記念財団			
	《代表者氏名》 理事長 古川 隆三郎			
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日			
業 務	①施設(設備)の維持・修繕等 ②雲仙岳災害記念館の管理運営			
利用料金制	■ 導入済	未導入	選定方法	公募 ■ 非公募

4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	①	有料施設入館者数		(目標値の根拠) ①事業計画による		＜令和6年度実施における変更点＞			
	②	雲仙岳災害記念館の管理瑕疵による事故発生件数		②雲仙岳災害記念館を安全な状態に維持することを目指す					
	③								
	実 績			令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (計画)	
			単位						
	①	a	目標値	人	50,800	63,088	123,000	104,100	155,000
		b	実績値	人	54,818	65,154	86,737	103,413	
		c	達成率b/a	%	107	103	70	99	
	②	a	目標値	件	0	0	0	0	0
		b	実績値	件	0	0	0	0	
c		達成率b/a	%	100	100	100	100		
③	a	目標値							
	b	実績値							
	c	達成率b/a	%						
指定管理者の収支状況		事業計画 (R5)		令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (計画)	
		(千円)	実績－計画						
	利用料金	58,036	721	30,388	38,035	50,183	58,757	74,260	
	県負担金								
	その他	63,250	▲ 4,918	119,789	85,958	68,107	58,332	70,178	
収入計a		121,286	▲ 4,197	150,177	123,993	118,290	117,089	144,438	
支出b		117,992	3,017	150,619	120,985	119,199	121,009	132,088	
	うち人件費	57,498	▲ 1,063	60,048	63,589	59,333	56,435	70,715	
収支a-b		3,294	▲ 7,214	▲ 442	3,008	▲ 909	▲ 3,920	12,350	
配置職員数	常勤	3	0	常勤 3	常勤 3	常勤 3	常勤 3	常勤 14	
(人)	非常勤	5	0	非常勤 5	非常勤 5	非常勤 5	非常勤 5	非常勤 4	

※この収支は指定管理者が行う管理運営にかかるものであり、この他に県が直接負担したものととしては、「2 施設の概要」の「県予算」の「その他」がある。

5. 令和5年度事業の実施状況・実績の検証

管理運営の状況	計	画	実	績
	<指定管理者実施分> 1. 集客対策について（計画：104,100人） （1）常設展示（計画：64,000人） ①個人客対策（計画：35,000人） ・レンタカー会社等への割引券設置 ・ワークワークショップの実施とPR ・島原半島市民対象の半額割引キャンペーン ・島原半島内ホテルと連携した夏休みプランの造成 ・広報媒体を活用した宣伝活動の継続展開 - 無料媒体での掲載 - 有料広告での掲載 ②団体客対策（計画：29,000人） ・修学旅行を扱う旅行社への営業訪問 ・一般団体を扱う旅行社への営業訪問 ・研修旅行を扱う団体への営業訪問 ・子供会・学童クラブへの誘客活動 （2）こどもジオパーク（計画：38,000人） ・上記対策の実施により誘客 2. 展示、催事運営について（計画：19,000人） ・「雲仙普賢岳噴火災害を振り返る巡回展」の開催（計画：2,000人） ・「親子で学ぶ石ころの不思議展」の開催（計画：2000人） ・「平成新山絵画展」開催（計画：2,000人） ・「復興のキセキ展」開催（計画：2,000人） ・「ちょこっとジオない話展」（計画：2,000人） 3. ショップ・カフェの運営について（計画：1,100万円） ・上記イベント企画等の実施による誘客 4. その他 ・施設及び付属施設等の維持・改修 - 管理瑕疵による事故件数（計画：0件） <県実施分> ①照明設備（LED化）改修の工事 ②屋根防水改修工事		<指定管理者実施分> 1. 集客対策について（実績：103,413人） （1）常設展示（実績：56,718人） ①個人客対策（実績：33,386人） ・レンタカー会社等への割引券設置（実績：1,844人） ・ワークワークショップの実施とPR（実績：3,464人） ・島原半島市民対象の半額割引キャンペーン（実績：43人） ・島原半島内ホテルと連携した夏休みプランの造成（実績：34人） ・広報媒体を活用した宣伝活動の継続展開 - 無料媒体での掲載（実績：17件） - 有料広告での掲載（実績：3件） ②団体客対策（計画：23,332人） ・修学旅行を扱う旅行社への営業訪問（36社訪問、実績：110校、8,228人） ・一般団体を扱う旅行社への営業訪問（37社訪問、実績：6件155人） ・研修旅行を扱う団体への営業訪問（18市町42ヶ所訪問） ・子供会・学童クラブへの誘客活動（常設展示32件892人、こどもジオ36件874人） （2）こどもジオパーク（実績：44,927人） 2. 展示、催事運営について（実績：19,317人） ・「雲仙普賢岳噴火災害を振り返る巡回展」の開催（実績：4,286人） ・「親子で学ぶ石ころの不思議展」の開催（実績：2,437人） ・「平成新山絵画展」開催（実績：1,702人） ・「復興のキセキ展」開催（実績：2,670人） ・「ちょこっとジオない話展」（実績：1,914人） 3. ショップ・カフェの運営について（計画：1,192万円） ・上記イベント企画等の実施による誘客 4. その他 ・施設及び付属施設等の維持・改修 - 管理瑕疵による事故件数（計画：0件） <県実施分> ①照明設備（LED化）改修の工事 ②屋根防水改修工事	
	検 証			
	災害の脅威と教訓を学習・伝承する施設として、多くの方に記念館へ来館してもらうため、県内外の関係団体や旅行社等に営業を行い、集客に努めた結果、物価高や全国旅行支援終了などの影響もあったが、104,100人の目標に対し、99.34%の103,413人とほぼ目標どおりの入館者数となった。 また、全国からの支援に対する感謝の気持ちを表す施設として、雲仙普賢岳噴火災害を振り返る巡回展やちょこっとジオない話展など、災害を風化させない取り組みをはじめ、自然と関わってきた歴史や文化などを紹介し、来館者に身近な地域への愛着や誇り、再発見につながる機会を提供するなど、質の高いサービスを実施している。 施設や設備の管理も適切に行っており、事故の発生はない。情報の収集・提供や相談受付、利用許可などの業務も事業計画に基づき、ほぼ適正に実施されている。			

収支の状況

収支計画・実績			
＜指定管理者実施分＞			(単位：千円)
主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入 a	121,286	117,089	
うち入館料	58,036	58,757	・当初計画通りの実績となっている。
うち特別会計繰入金	55,000	55,000	・当初計画通りの実績となっている。
うち施設利用料等収入	2,220	3,172	・施設利用料、企画展収入の増加による増
その他	6,030	160	・雇用調整助成金の減
支出 b	117,992	121,009	
うち人件費	57,498	56,435	・概ね計画通り実施
うち委託料	16,650	21,511	・次期指定管理者へ管理物件を引き継ぐための原状回復に係る費用の
うち光熱水費	27,541	19,640	・館内照明のLED化による光熱費の減
うち広報費	2,300	1,068	・無料媒体活用による広報費の減
その他	14,003	22,355	・故障備品の更新による増
収支a-b	3,294	△ 3,920	

＜県実施分＞

建築設備定期点検 1,289千円

照明器具及び照明制御装置更新工事 31,987千円

屋根改修工事 24,121千円

検 証	
収支については、概ね計画の範囲内での執行であるが、令和6年度から指定管理者が変更することから、次期指定管理者への管理物件を引き継ぐための原状回復費用や高額な備品の更新費用があり、△3,920千円となった。	

指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価	B
(説明)	
○有料施設入館者数などの本事業で設定している成果指標は未達成であるが、104,100人の目標に対し、99.34%の103,413人とほぼ目標どおりであり、多くの来館者に雲仙普賢岳噴火災害の脅威と教訓を学習・伝承の施設として活用していただいた。	
○全国からの支援に対する感謝の気持ちを表す施設として、雲仙普賢岳噴火災害を振り返る巡回展やちょこっとジオない話展など、災害を風化させない取り組みをはじめ、自然と関わってきた歴史や文化などを紹介し、来館者に身近な地域への愛着や誇り、再発見につながる機会を提供するなど、設置目的を踏まえた継続的な取り組みは評価できる。	
○また、事故の発生もなく、施設や設備の管理も適切に行っている。	

6. 令和6年度事業の実施にあたり見直した内容

内 容
○令和6年度から、雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）の管理運営業務を一層効率的に実施するため、公募により選定されたシダックス大新東ヒューマンサービス（株）が行っている。 ○4月には、シダックス大新東ヒューマンサービス（株）が得意としているカフェのメニューをリニューアルし、地元の食材を活かしたランチやスイーツの充実を図っているところ。 ○また、夏休期間限定のイベントなどを開催するほか、令和7年1月からはリニューアル工事を計画しており、県内外から多くの来館者を呼び込むこととしている。 ○これまで非常勤の嘱託職員や時間給の臨時職員であったスタッフを指定管理者が変更した際に、常勤職員として採用している。

7. 令和6年度事業の評価

※評価区分（a：行われている、b：一部行われていない、c：行われていない）

指定管理者の行う管理運営等に関する評価	視点	評価	判定理由
	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	県民や県外観光客に災害の教訓等を伝承していく施設として、設置目的にあった事業を実施している。
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	地域住民に対し、イベント開催時は施設を広く開放するなど、公平かつ平等な利用を確保している。
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	体験型の新たな企画展の開催、火山学習プログラムの充実や被災体験講話（語り部特別講話）の実施など、入館者の満足度を向上するための方策を実施している。
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	施設・設備の機器類の定期保守点検、施設内外の定期清掃の実施など、維持管理が適切に行われている。
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	料金体系の見直しや有料イベントの開催など積極的に収入の確保に向けた取り組みを行っている。
	・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	館内設備の精査による保守業務の見直しや電気使用量監視システムによる電気料金の縮減等、経費節減に取り組んでいる。
	(その他の観点)		

施設の在り方についての評価	視点		評価	理由
	必要性	・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	■ a. 薄れていない b. 一部薄れている c. 薄れている	災害の脅威と教訓の学習・伝承という施設の設置目的の必要性は全く薄れておらず、近年自然災害が増加する中、その必要性は増している。
		・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適應しているか。	■ a. 適應している b. 一部適應していない c. 適應していない	近年、全国の災害が激甚化する中、最新の情報も紹介しつつ、防災知識を楽しく学ぶための防災キャンプを実施するなど新たな取組も実施している。
		・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	■ a. 適当（可能）でない b. 一部適当（可能）でない c. 適当（可能）である	災害の脅威と教訓を多くの県民や県外観光客に伝え、防災意識の向上を図っていくためには、県と市町、民間団体が役割分担をして取り組んでいくことが適当である。
	効率性	・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	a. 得られている ■ b. 一部得られている c. 得られていない	県は施設の管理運営経費を負担しておらず、必要最低限の経費と人員で施設の管理運営を行っており、業務量に見合った活動結果が得られている。しかし、運営費に充当している雲仙岳災害対策基金の残高は減少が続いており、一層の削減が求められる。
		・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	■ a. 代えられない b. 一部代えられない c. 代えられる	指定管理者制度のもと、県の管理運営経費の負担なしで効率的な管理運営が行われており、現時点でこれに代わる手法はない。
	有効性	・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	■ a. なっている b. 一部なっていない c. なっていない	指定管理者制度のもとで施設の効率的な管理運営が行われ、災害の脅威と教訓の学習・伝承という施設の設置目的を達成している。
		・事業効果をさらに上げる余地はないか。	a. 余地はない ■ b. 一部余地がある c. 余地がある	令和6年度からは、記念館の管理運営業務を一層効率的に実施するため、公募により選定された民間事業者が行うこととしている
	(その他の観点)			

8. 令和7年度事業の実施に向けた方向性

区分	現状維持	■ 改善	移管	廃止
(説明：令和6年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容) 記念館は、開館から20年以上が経過し、これまで来館者が減少傾向にある中、令和7年1月からはリニューアル工事を計画しており、記憶の継承とエンターテインメント性の向上を両立するとともに、ユネスコ世界ジオパークの中核的施設として、家族連れで何回も足を運んでもらえるよう、今後も指定管理者としっかりと協議をしながら認知度向上及び活用促進に取り組んでいきたい。				